



与一くんを活用して献血運動の啓発を図っていきます

献血運動について

質問（高野礼子議員） 与一くんキャラクターにかけて、大田原市から「よいち（良い血）」運動を展開してはどうか伺います。

答弁（市長） 献血の状況につきまして本市では、県の血液センターによる出張移動採血が市文化会館や企業、大型スーパー等に年に七十回程度行われており、平成二十三年度の総献血者数は三千五百六十一人の方々にご協力をいただいています。献血率といたしましては約4.5%

で、県内十四市中第二位となっております。献血に対する意識は高い状況です。

さらに献血への意識の高揚を図るため、本市においては市広報で毎年一月から二月にかけて全国で実施されている二十歳の献血キャンペーン及び文化会館において実施されている出張採血のご案内をしています。

栃木県では既に、ご当地献血キャラクター「いちごけんつちゃん」が存在し、献血キャラクターを活用した各種啓発運動

を実施しておりますが、今のところ大田原市独自の啓発活動は実施していないのが現状であります。

市としては、現在市が実施している骨髓バンク登録推進キャンペーンや本市及び事業所等で実施する献血の際に、現在の献血協力者に配付しておりますウエットティッシュやパンフレットに与一くんのイラストや良い血（与一）運動推進中などの表示をして配布するなど、与一くんキャラクターを活用して、献血に関する意識の高揚や普及啓発を今後図っていきたくと考えています。

いじめ問題について

質問（植竹福二議員） 滋賀県大津市におけるいじめ問題を契機として、各地で同様な事件が相次いで報道され、大きな社会問題になっていますが、本市のいじめ防止に対する具体的な対策について伺います。

答弁（教育長） 子供たちの主たる生活の場である学級をいじめが発生しにくい学級集団に育成していくことがいじめを予防する上で重要であると考えています。そのためには、授業や学校行事などさまざまな教育活動を通して児童生徒一人ひとりに

存在感、達成感を与えようとすると、思いやりの心や規範意識を高め、対人関係能力を向上させることが重要であるとと考えています。

「一人はみんなのために、みんなは一人のために」の言葉に代表されるように、クラス全員が団結して一つのことに取り組み、協力することのすばらしさを味わえるような体験をさせたり、授業の中で話し合いの場を多く設定しています。

また、本年度より「ありがとう運動」を推進しております。

「ありがとう運動」の目指すゴールは、自己重要感の醸成であり、学級の中でみんなから認められ、自分はみんなの役に立っているという意識があれば、人間関係もよくなり、いじめも起こりにくくなると考えています。

さらに、早期発見と早期対応及び予防的な指導の充実を目指して臨床心理士などの資格を持つカウンセラーや大田原市臨時職員の学校教育相談員を学校に配置しています。

今後もしじめは人権にかかわる重大な問題であり、絶対に許すことのできない行為であることを念頭に置き、さまざまな手だてを思案していきたく考えています。



子供たちが学校生活での悩み事を学校教育相談員などと話し合う相談室